

中山道を歩く

初期

岡谷方面から
桜沢へ



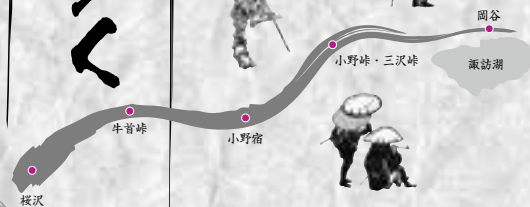
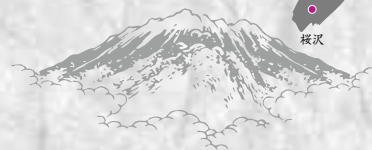
塩嶺王城観光開発協議会
(岡谷市・塩尻市・辰野町)



中山道を歩く

初期

桜沢方面から
岡谷へ



塩嶺王城観光開発協議会
(岡谷市・塩尻市・辰野町)



下諏訪宿からの道と

塩尻峠が合流する十字路から

諏訪湖を後に険しい山中に入る初期中山道。

三沢峠を越え小野宿までの沿道には

古道のおもかげ、

小さな集落や神社仏閣、

写真に収めきれないくらいの

沢山の石仏群が祀られていたり、

草に埋もれた素朴な

道祖神を見ることができます。

石仏や道祖神、

往時の温もりが

あちらこちらに息づきます。



道祖神



しだれ栗



石仏



初期中山道

岡谷方面から桜沢へ
岡谷〳〳川岸
岡谷〳〳小野峠
川岸〳〳小野宿
三沢峠〳〳小野宿
三沢峠〳〳小野宿
小野宿
小野宿〳〳下村
小野宿〳〳山口
下村〳〳牛首峠
山口〳〳桜沢
牛首〳〳桜沢分岐
桜沢分岐〳〳韮川方面
全体マップ

29 27 25 23 21 19 17 15 13 11 9 7 5 3 1

十五社神社は、塩竈山地から川岸山地の裾に点在し、北から今井・間下・岡谷・三沢・新倉の五社がある。このうち三沢十五社は後に熊野神社とかわつてゐる。また、十五社一帯は古代岡谷牧に比定されている。



(釜口水門)

釜口水門

至東京

岡谷十五社神社(常夜燈)

照光寺

明治十八年
地元有志が
不動尊を祀ったのが
始まり。
本堂裏斜面には
多くの石仏たちが
佇んでいる。

初期中山道
案内看板

岡谷招魂神社
开

蓮華不動院

至長野

岡谷トンネル

中央自動車道

指定されている建物。
国の重要文化財に
明治四十年ころ完成した
芬林製糸所
林国蔵の邸宅である。
装飾の二階には金唐革紙で
残された部屋があり、
当時の金唐革紙が
残されているのは
稀有である。
日本の近代化を支えた
製糸業の繁栄ぶりを
見ることが出来る。

成田町の石造物群
馬頭観音庚申塔など
多くの石造物がある。
馬頭観音は頭部が
他のものに比べ
大きいのが特徴である。
この石造物群より
少し登った所に、
秋葉神社があり、
寛延三年に宗良親王の
石像が建てられている。

熊野神社の祭神は
イザナギノミコト・
コトワケオノミコト・
ハヤタマオノミコトの三神。
水神

境内にある狒狒は
高麗犬系であり
市内では
ここだけにしかない。

真福寺

真福寺本尊は、室町時代に作られた阿弥陀如来坐像。宝永三年三沢村記録に「お寺焼け云々」とあり、本尊の蓮台の一部は炭化している。

御嶽社構の石造物群
文字碑約三十基、
刻像碑二十五基ほどを数
特に馬頭観音が多い。
一面六臂の青面金剛像や
忠大小僧と彫った
鳥獣供養塔がある。

京 (川岸へ)

三沢の一里塚
(江戸日本橋より五十七里)

至名古屋

天竜川
諏訪湖から流れ出る唯一の川であり、遠州灘へ注ぐ全長213km。
天竜下りなど観光も活発である。
東海地方との交流路として重要な河川であった。

明治から昭和はじめにかけて
天竜川沿いには多くの製糸工場が並んでいた。
当時「岡谷の雀は黒い」と言われ
工場の煙突が林立していた。
現在片倉兼太郎生家、旧片倉組本部事務所など
製糸関連の建物がある。

諏訪明神の入諏伝説が
この地にある。
明神は藤環をもち、
洩矢神は金環を持つて
争つたと伝えられている。
天竜川の兩岸に藤島社と
洩矢社が対峙している。

開
もりや
洩矢神社

-4-

-3-



(三沢一里塚)

三沢一里塚
江戸より五十七里の一里塚が残る。
慶長六年勘定奉行大久保長安が
木曾の森林資材に着目し、
中山道小野通りの開発を行った。
一里塚の石碑のある塚の下に
もう一つ塚が残る。
本来の初期中山道は
現在の道より
下にあったことがわかる。

初期中山道
案内看板
道標

三沢の一里塚
(江戸日本橋より五十七里
一里塚を下った辻に
「右小野木曾道
左伊那三河道の道標があり
当時の主要な道路の
分岐点である。)

14 下諏訪辰野線

天竜川

よもぎ沢川

つるみね保育園

鶴峰公園

中部日本一
つつじの名所

コンビニ

(鶴峰公園入口看板)

初期中山道
案内看板

昭和十年に片倉一族から
川岸村へ寄贈された。
村はこにつじを植樹し
その数三万株と言われている。
公園内には
日本の製糸業を築き上げた
シルクエンペラーと呼ばれる
初代片倉兼太郎翁の銅像が建つ。
毎年五月にはつつじ祭りが
盛大に開催され
多くの人で賑わっている。

広畑遺跡は
縄文時代中期を代表する遺跡で、
大正時代の文献に登場する
高尾山より流れ出る
湧水に恵まれた
五千年前の集落があった。
諏訪地方でも屈指の縄文遺跡で
岡谷市指定史跡。

広畑遺跡

初期中山道案内看板

急な坂

中世三沢氏の居城であった。
戦国時代領主三沢対馬守は
武田信玄に仕え
「諏訪五十騎」の一人であった。
頂上は人工的に
地ならしされている。

高尾城址

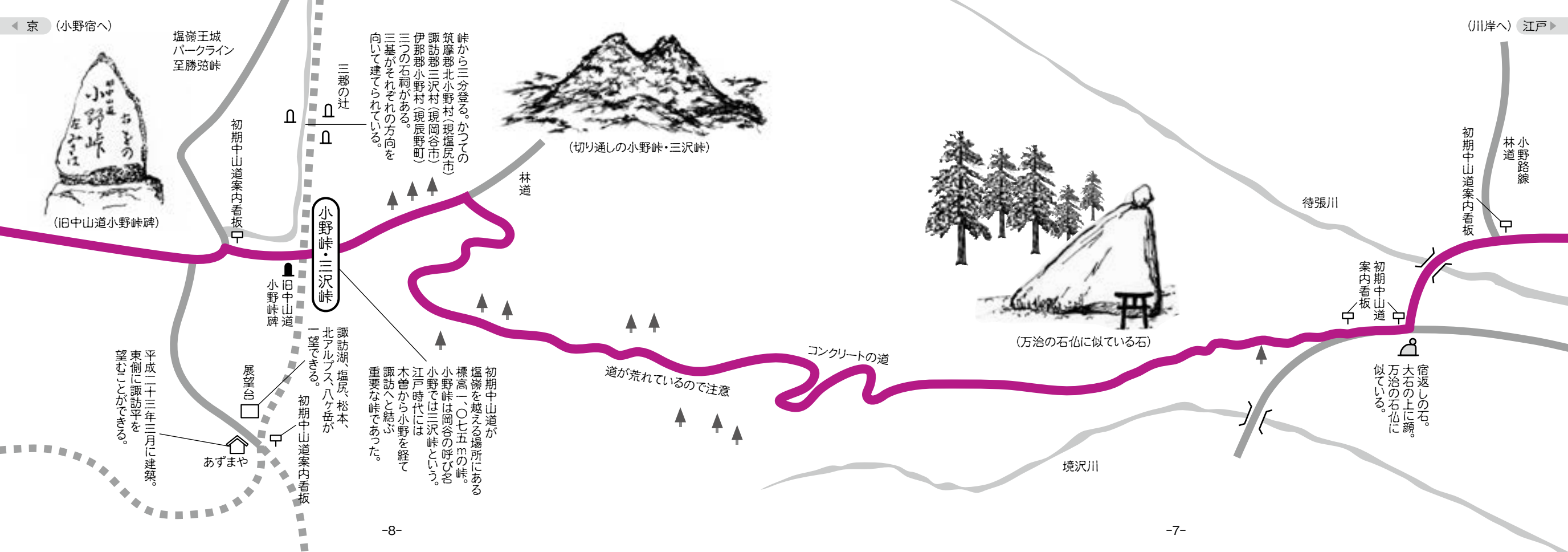
東雲閣

明王の堤

待張川

ゆるやかな登り

棚田



京 (小野宿へ)

(川岸へ) 江戸

塩嶺王城
パークライン
至勝竈峠



(旧中山道小野峠碑)

初期中山道案内看板

三郡の辻

峠から三分登る。かつての
筑摩郡北小野村(現塩尻市)
諏訪郡三沢村(現岡谷市)
伊那郡小野村(現辰野町)
三つの石祠がある。
三基がそれぞれ方向を
向いて建てられている。



(切り通しの小野峠・三沢峠)

林道

小野峠・三沢峠

旧中山道
小野峠碑

諏訪湖、塩尻、松本、
北アルプス、八ヶ岳が
一望できる。

展望台

あずまや

平成二十三年三月に建築。
東側に諏訪平を
望むことができる。

初期中山道が
塩嶺を越える場所にある
標高一〇七五mの峠。
小野峠は岡谷の呼び名
小野では三沢峠という。
江戸時代には
木曾から小野を経て
諏訪へと結ぶ
重要な峠であった。

道が荒れているので注意

コンクリートの道



(万治の石仏に似ている石)

境沢川

待張川

初期中山道
案内看板

宿返しの石。
大石の上に顔。
万治の石仏に
似ている。

初期中山道案内看板

小野路線
林道

初期中山道案内看板
旧中山道小野峠碑

展望台

あずまや

至日本中心の標

この割石から上の峠まで
一帯はかつて小野と岡谷の
入会山であったが争論の結果、
分割された。
「これより東峰までの内、
南は巖沢の峰まで入相、
西は南小野村の内山に相究也、
寛文五乙巳十一月二十三日」
と刻まれていましたが、
現在は風化して読めない。

小野楡沢の割石

「シダレグリ自生地」があります。
公園内にはキャンプ場やバンガロー、
バーベキュー施設、マレットゴルフ、
パターゴルフ場もあり、
付近には名水「色白水」や
初期中山道に使われた道が残ります。
長野県の中心地に
位置していることから、
リーズナブルな観光拠点としても
利用されています。

至塩嶺カントリークラブ、
塩嶺体験学習の家、
いこいの森公園・地球の宝石箱

しだれ栗森林公園ゲート
塩嶺王城パークラインは冬期間通行止めとなる。
辰野町側はこのゲートで閉め切る。

しだれ栗森林公園

シダレグリ自生地

WC

あずまや

電石

平成二十三年三月に建築。
正面には国天然記念物の
「シダレグリ自生地」がある。

八百本以上のシダレグリが
群生を作って自生している。
大正九年に
国天然記念物に指定された。
学術的には火山活動の
影響による突然変異で、
幹や枝の生長に特異の性質を
おびたものとされている。
一方でしだれた枝は昔、
弘法大師が栗の実を
とりやすくするために
枝を下げてくれたとか、
栗が天狗の食糧で
天狗が腰掛けたためしだれた
などの言い伝えがあります。

日本武尊が東征の帰途で
休んだ石とも、
わらじの紐を締めなおした
石ともいわれている。
上部に足跡の窪みがあり、
雨水がたまっているが、
この水をこぼすと
不思議に山が荒れ
雨が降るとい
言い伝えがあり、
地元の人はこの水に
触れることを忌む。

杓掛石

(杓掛石)

江戸日本橋より
五十八里(初期中山道)にあたり
現存する二つの塚の間に
当時の通筋をしのぶことができる。
戦前にはこの扇沢地籍に
在郷軍人の射撃場があった。

楡沢の一里塚
(五十八里)

相吉しだれ栗

水
色白水

相吉しだれ栗



初期中山道案内看板

153

JR小野駅

しだれ栗入口

明治四十三年十一月建立。
筆渚は乃木希典。

日露戦役忠魂碑



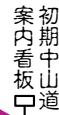
忠魂碑



小野公園

富士塚

初期中山道
案内看板



のどかな田んぼ

大正八年造園。
小野光景翁の
銅像建立を機会に造園。
製糸工場の盛んな時代に
賑わった。



(小野光景像跡)

昭和十二年三月建立。
筆渚は陸軍大将有馬良橘。

小野光景像跡
大正八年に
翁の功績をたたえて
建立された。
銅像は太平洋戦争時に
供出され
現在では台座のみ
残っている。



(色白水)

この水を飲んだり
顔を洗うと
肌が白く美人になると
いわれている。
水質は中性。

水

色白水

あずまや

木曽方面を望むと
初期中山道の道筋が見てとれる。



(祭林寺)

宗派は曹洞宗。
弘安元年開基といわれる
西蓮寺と東光寺を合わせて
現在の祭林寺と改称した。

駒沢川

辻の地藏尊

祭林寺

辰野町、塩尻市の
組合立小学校として
運営されている。

塩尻市辰野町組合立
両小野小学校

文

小野郵便局

駐在所

小野農民
研修センター

食事処

食事処

食事処

食事処

小野介護予防センター

JR小野駅

WC

大鳥居

両小野国保診療所

大正四年、大正天皇御即位大典の
奉祝記念として建てられた。
大正十五年、付近の火災で撤去され、
木造で立て替えられたが、
昭和三十年、国道拡幅工事の際に
現在のコンクリート製に
立て替えられた。

唐沢川

古田弔記念館

記念館には古田邸来訪者のほか
古田弔(筑摩書房創立者)と関係の
あった文人の書簡、写真、胸像等が
展示されています。



塩尻市辰野町組合立
両小野中学校
文

(霧訪山)

(矢彦神社)

小野神社
矢彦神社

信濃国二ノ宮として
古くから崇拝されてきた神社。
木曾義仲が戦勝祈願を行った
ともいわれ、
拜殿、左右回廊、勅使殿、神楽殿は
江戸時代の作で
県宝に指定されている。
社叢は県天然記念物

至善知鳥峠

153

国道153号線
名古屋市と塩尻市を結ぶ道路で総延長213.3km、
明治時代には三州街道と呼ばれていた。

明治三十九年開業。
東日本旅客鉄道(JR東日本)
中央本線の駅で、
相対式ホーム二面二線を
有する地上駅。

至三沢峠

一八六四年創業。
銘酒「夜明け前」は
□当たりはやわらかで
すっきりとした味わい。

小野光賢・光景記念館

小野酒造店

しだれ栗入口

駒沢川

祭林寺

中央本線

横浜港が開港した当時
横浜で横浜商法学校
（現市立横浜商業高校）を創設、
横浜商業会議所
（現横浜商工会議所）会頭を
務めるなど、貿易商で成功し、
郷里小野にも病院、図書館、
学校を設立した小野光景と
行政面で尽力した
小野光賢の記念館

（小野酒造）

江戸時代に定書（法度）
などを掲げた。

高札場

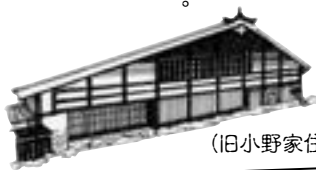
食事処

旧小野郵便局

明治七年一月に
小野八郎が
郵便取扱役を命ぜられ、
私邸（旧小野家住宅）の
一部を使って
郵便取扱所として
業務を行ったのが
はじまり、
昭和六十年に
現在地に移転した。

旧小野家住宅（小野宿問屋（県宝））

（旧小野家住宅）



小野宿

国道153号線

小野宿
初期中山道の新宿として設けられ、伊那街道の
小野宿として発展した。元禄元年（1688）と
安政6年（1859）に大火にあって町並みは消失し、
それ以降に再建された。

小野川

たのめ
憑の里

小野は古くからたのめの里と呼ばれている。
その記述は平安時代中期の「枕草子」や平安時代後期の
歌人、肥後守藤原定成の女の歌にも出てくる。
頼むとか頼りにされるといった意味がある。
たのめの語源は旧暦の八月朔日に行われた
矢彦・小野神社の「田の実祭」に起因するというのが通説。

明治三十六年に建造された
旧小野村役場。
現在も地域活動などに
利用されている。
（国有形文化財）

明倫館（旧役場）

小野下町

初期中山道案内看板

至伊那

藤沼

底仙龍

のし

中村地区の飯沼川
右岸に五本あって、
大きいものは
目通幹囲五・五メートルで
高さ二六メートルある。
樹皮にオシヤゲジデンドを
たくさんつけている古木。
「木曾義仲、お手植えのトチ」
ともいわれている。

中

熊野諏訪神社

熊野諏訪神社社叢のトチノキ
(町天然記念物)

庚申石祠

明治五年に村社に列せられ、明治四十年、宮の原にあつた諏訪神社を合併し現在に至る。神社合併が両者対等になされた数少ない神社の一つ。

明暦四年の石祠
台から塔までの高さ
百二十センチ。
真ん中より下部に
長方形の窓があり、
上部に二猿が刻んである。

-18-

細洞のため池

押野

藤昌庵
(地元集会所)
飯縄神社

下

山口から下村には
家紋入りの土蔵が
多く見られる。

下村しだれ桃の里看板
花の見頃の四月下旬から
五月上旬には、約二千口にわたり
千本を超えるしだれ桃が楽しめる。

江戸日本橋より五十九里
(初期中山道)

飯沼塚原の一里塚跡(五十九里)

津島神社 开

(津島神社)

休戸

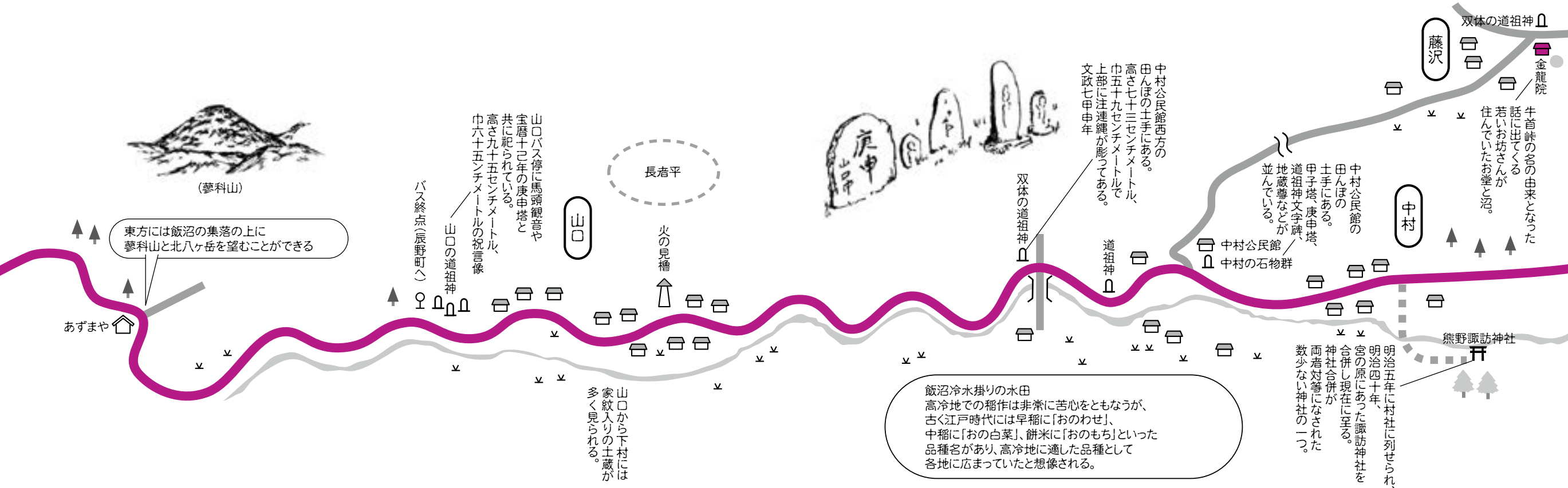
水晶山

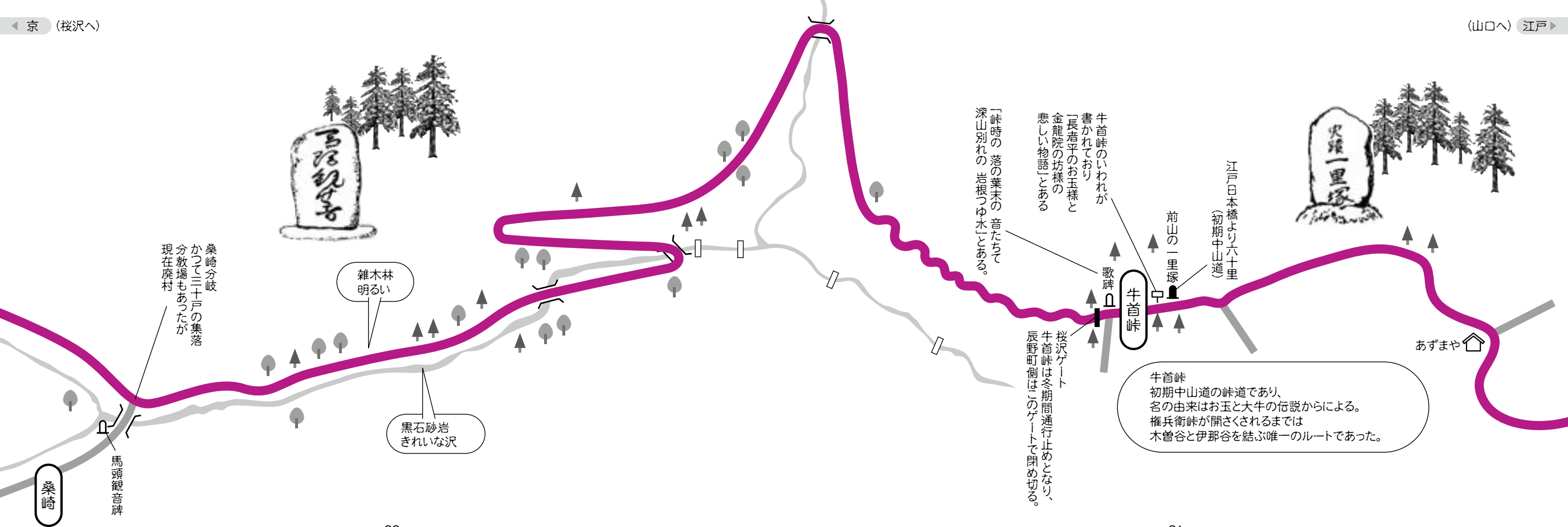
県道254号線
別名「県道檜川岡谷線」、
塩尻市から小野を通り岡谷市までに至る県道。
牛首峠は冬期間は閉鎖となり通行できない。

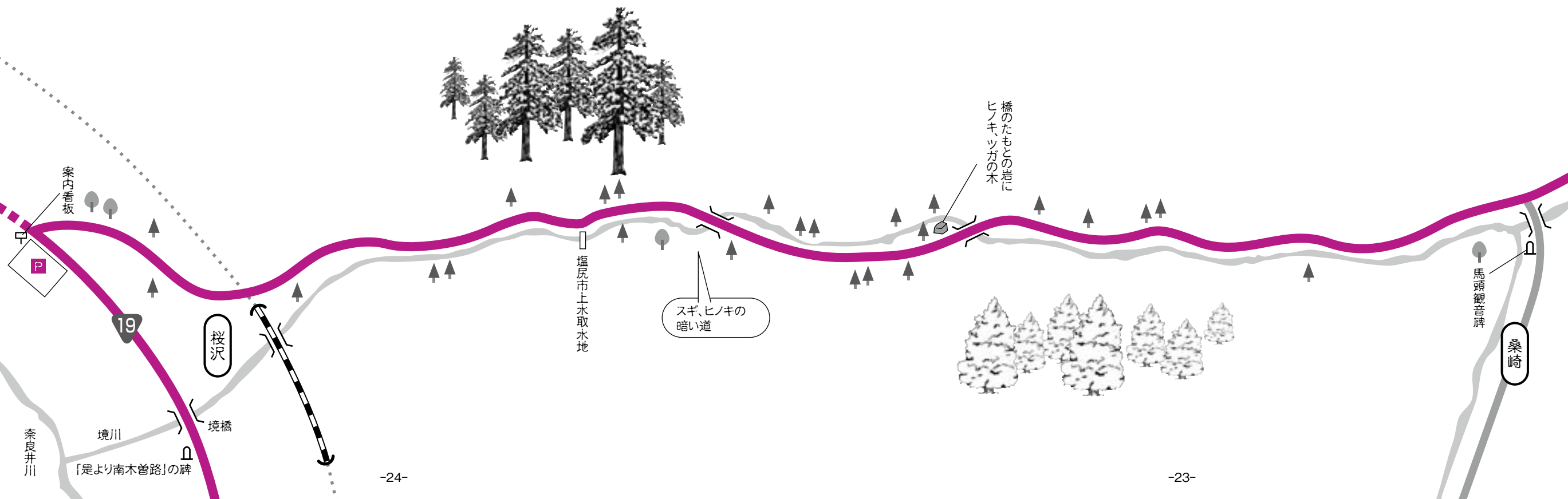
小野下

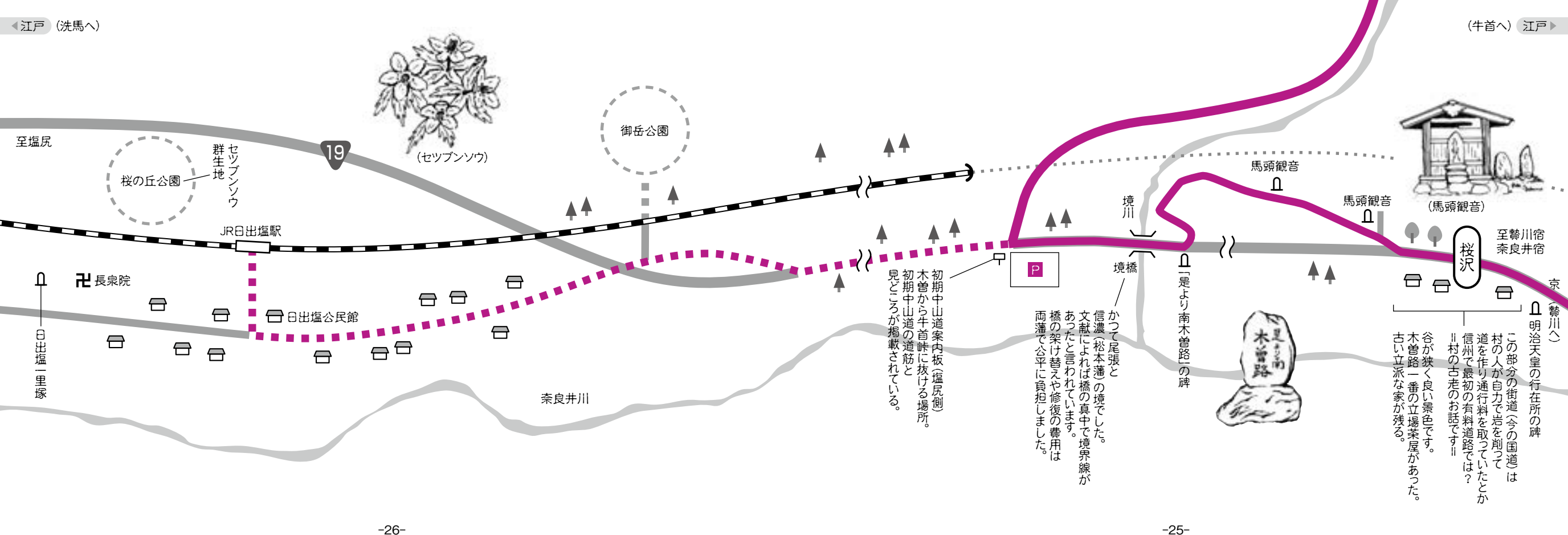
至辰野

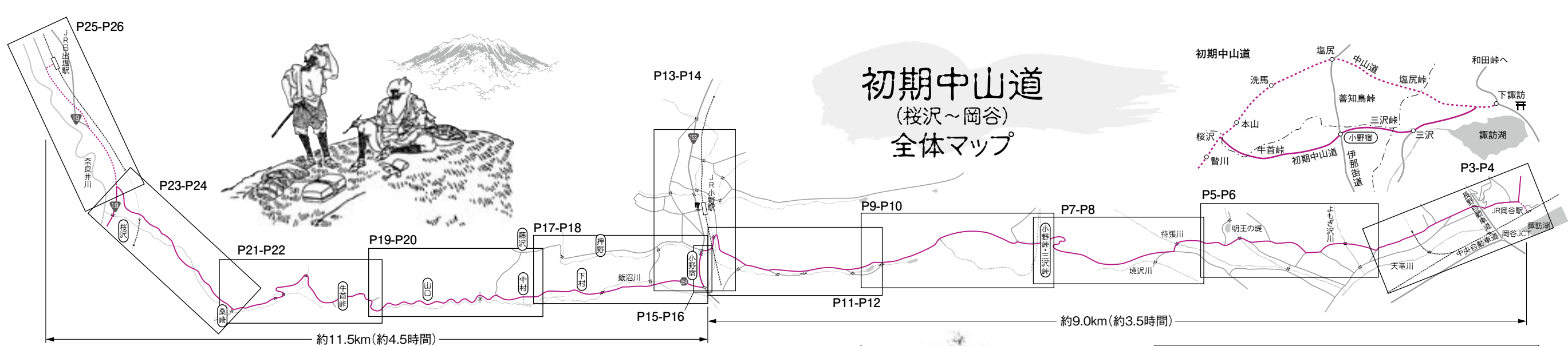
至小野宿











初期中山道ウォーキングマップをご利用するにあたり

- 1.このマップは、2014年3月現在の情報をもとに作成してあります。目印の建物の移転、取り壊し、木の伐採等で情報が変わる場合があります。予めご了承ください。
- 2.江戸時代の初期中山道中心に記載していますが、すでに道が残されていないところや、私有地になっている所、経路について諸説存在するところなどもあり当時の道を完全に再現するものではありません。
- 3.初期中山道を辿ることを優先して作成されたマップのため、車の往来が激しく、構断歩道の無い危険な箇所、私有地が存在します。歩かれる際は十分注意してください。なお、このマップをご利用して負傷した場合、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- 4.牛首峠、小野峠付近など熊の出没する区間があります。鈴等、音の出るものをご準備下さい。
- 5.冬期通行止の箇所があります。
- 6.飲食する場合等に出るゴミは必ずお持ち帰り下さい。



お問い合わせは下記へ

塩嶺王城観光開発協議会（事務局TEL.0266-23-4811）

- 岡谷市商業観光課
〒394-8510 長野県岡谷市幸町8番1号 TEL.0266-23-4811
- 塩尻市観光課
〒399-0736 長野県塩尻市大門一番町12番2号 TEL.0263-52-0280
- 辰野町産業振興課
〒399-0493 上伊那郡辰野町中央1番地 TEL.0266-41-1111

旅の無事を願う やさしいお顔の石仏が 今も微笑む。

中山道には塩尻を通らない
初期の中山道があった。
この旧街道は桜沢から東の山中に入り、
牛首峠を越えて小野宿、
さらに小野峠を越えて下諏訪で
塩尻峠からの中山道と
合流する道である。
距離は短いが途中に峠が2つあり、
沢沿いを通る道は爽やかで
はるか江戸への近道でした。



初期中山道



小野宿



明倫館



色白水



岡谷方面から桜沢へ
岡谷〜川岸
岡谷〜小野峠
川岸〜小野宿
三沢峠〜小野宿
三沢峠〜小野宿
小野宿
小野宿〜下村
小野宿〜山口
下村〜牛首峠
山口〜桜沢
牛首〜桜沢分岐
桜沢分岐〜替川方面
全体マップ
桜沢方面から岡谷へ